

古戸の花祭り 撮影表

平成18年12月31日～平成19年1月4日4日

日	時間	行事	場所	内容
31日			周辺の関係する地と俯瞰など。	
1日		朝 若水迎え等・正月の飾りなど		
2日	<p>神事/舞 9時30分～</p> <p>昼食 午後1時～</p>	<p>・見目様</p> <p>・滝祓い</p> <p>かどじめ ・高嶺祭り</p> <p>・辻固め</p> <p>・神寄せ</p> <p>・天の祭り</p> <p>・悪魔祓い</p> <p>・殿入り</p> <p>・切目の王子</p> <p>・しめおろし</p> <p>・さるごばやし</p> <p>・竈祓い</p>	<p>外・竹林のなか見目様の祠</p> <p>外・滝の清水で祭場を浄める。</p> <p>外・畑のなか。 白山祭と同じ？</p> <p>外・高嶺祭とは反対の方角の畑。</p> <p>神部屋の行事と舞庭</p> <p>舞庭の行事 神座の行事 神座の行事 神座の行事 神座の行事 神座の行事 舞庭の行事</p>	<p>かつての神楽屋敷(伊藤嘉文宅)の裏手の竹林。</p> <p>・供物と神酒を供えて祝詞の後、青木の葉で杯、直会。</p> <p>・注連縄を張り、供物を供え花太夫が九字印など行い、滝から水を汲んで持ち帰る。</p> <p>・神部屋に祀る。</p> <p>・結界のなかに大天門幣。</p> <p>・五方に投餅する。</p> <p>・幣を切る所作。</p> <p>・餅を投げる。</p> <p>・花太夫が太鼓をたたく/竈回りを廻る。</p> <p>・御神酒を自分にかける所作。</p> <p>・太鼓を打ち、拍子入りのうたぐら。</p> <p>花太夫が竈の前に坐る～竈幣を差す～清めの塩を投げ入れる～印を結ぶ(火伏せ)～薪がくべられる～お滝の湯を注ぐ～</p>

3日	午後2時～	・湯立		<p>大幣の竹で印を結ぶ～笹の葉と湯たぶさを湯に浸して舞庭の五法に振りかけ、花宿を浄める。</p> <p>願主の湯壺に湯を汲み、湯立ての裯い～湯たぶさ・柄杓・湯桶は湯棚の置かれる。</p> <p>天神地祇に献じ後に一般信仰者の祈願に応ずる。</p>
	休息	・楽の舞	舞庭の行事	・バチを持ち、宮人が一人で舞う。
	花祭の行事	・式さんば	舞庭の行事	・鈴と扇で一人舞、菰の上。
	午後4時頃	・順の舞	舞庭の行事	・三人舞。
		・市の舞	青年の舞	・一人づつ三折。左手に扇と笹。
		・地堅の舞	青年の舞	・左手に扇、右手に鈴。
		扇		・左手に木太刀、右手に鈴。
		やちごま		・左手に剣、右手に鈴。
		剣		
	午後7時頃	・花笠の舞	幼児の舞	
		・花の舞・扇	幼児の舞	
		・花の舞・盆		
		・花の舞・湯桶		
	午後10時頃	・山見鬼 (山割鬼)		・この頃からにぎわう。
		・三ッ舞	少年の舞	・伴鬼二人から山見鬼に・三ッ舞の扇役が松明を持ち伴に舞う。
		扇		・山(竈を割る所作)
		やちごま		・三人づつ三折。
		剣		
	午前0時頃			
	午前1時頃	・榊鬼		・伴鬼から榊鬼に・三ッ舞の剣役が松明を持ち伴舞。
		伴鬼		・祢宜が改める問答の後に、2
		榊鬼		へんばいを踏み、三三九度を舞う。
				・伴鬼二人。

午前3時頃	一力花 ひの祢宜	祢宜の面形で、右手に五色の氏神の幣、右手に鈴。  女面・神子一人/おかめ親子/婆(孕み女)/娘の二人	一力花・一人の力で花祭りを立願を持って奉納する・立願の舞。 一力花はびゃっけの小型のもので、一力花と花の本は立願者が持ち帰る。 花の本・氏神の幣 消防団・舞手を指名できる。 ・それぞれ面形をつける。 ・祢宜が改める。 ・蠟燭にて先導。
午前5時頃	一力花 ・おちりはり  一力花 ・四ッ舞	潮吹き/鼻垂らし   少年の舞 扇 やちごま 剣	潮吹きと鼻垂らし・摺古木と五幣餅を持つ～舞う～見物人に擦りつける～おかめ親子、孕み女～四ッ舞を舞納める。  ・四人ずつで、上衣は持って舞～着て舞う。 ・左手にひいなのお翁幣、右手に鈴。
午前9時頃	・舞上 ・翁		・改める祢宜と問答あり。
午後12時	一力花 湯囃  舞庭掃除 ・朝鬼(茂吉鬼)  ・獅子舞  一力花	少年の舞	・湯束を持って舞い、観客を浄める。  ・伴鬼から朝鬼 ・竹の柄と藁で出来た槌を持ち舞う～びゃっけの蜂の巣を打ち落とす。 ・弟子の鬼が大勢出て来て乱舞。  ・囃子方一人、氏神の幣を持ち舞う。 ・願主の願いで各種の舞を舞う。

4日	午後3時頃	<p>花祭終了後の神事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しめおろし</li> <li>・神返し</li> <li>・鎮め</li> <li>・外道祓い</li> <li>・荒神祭</li> </ul>	<p>神座の行事</p> <p>神座の行事</p> <p>外</p> <p>神部屋</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花太夫、宮人の行事。</li> <li>・湯竈を回りながら、神々を返す。</li> <li>・すいのこの面を被った花太夫が逆さ足で九字を踏む～反閉～外道祓い。</li> <li>一升櫛に米を入れ。</li> <li>荒神幣など、祓い銭と一緒に和紙で包み、おひねり状にした埴山姫と一緒に麻で巻く・宝巻き。</li> <li>花宿・今は世話人が朝鬼の使用した採り物とともに持ち帰り、家の棟木に縛りつけ、悪魔祓いとする。</li> <li>持ち帰った米は家族だけで食べる。</li> </ul>
	午後5時頃			
	午前10時	・宮渡り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・祭具を納める。</li> </ul>